

メリットとしては「③修正や差し替えが簡単にできる」、「⑧資料の保管スペースを削減できる」が挙げられました。

また、特に取り組んでいないCグループが想定するメリットとしては、Bグループと同様、「③修正や差し替えが簡単にできる」、「⑧資料の保管スペースを削減できる」が挙げられました。

(4) ペーパーレス化におけるデメリット

図表5は、多摩・島しょ地域自治体が認識もしくは想定している、議会資料のペーパーレス化におけるデメリットです。

▼図表5 議会資料のペーパーレス化におけるデメリット

デメリット（複数回答）	回答した自治体数		
	Aグループ (4自治体)	Bグループ (11自治体)	Cグループ (24自治体)
① 初期費用・維持費用の確保が難しい	0	7	18
② 画面が小さくて見にくい	2	4	6
③ 画面を見続けると疲れる	1	2	4
④ 複数の資料を同時に見にくい	3	9	16
⑤ メモが取りにくい	3	2	12
⑥ 不慣れな方にはサポートが必要となる	3	10	23
⑦ システムやネットワークの障害を受けやすい	0	1	9
⑧ 端末の紛失等によるセキュリティ上のリスクがある	2	5	13
⑨ 端末を別の目的で使用される恐れがある	2	5	8
⑩ 使用ルールの整備が難しい	2	6	10
⑪ その他	0	4	1

既に取り組んでいるAグループでは「④複数の資料を同時に見にくい」、「⑤メモが取りにくい」、「⑥不慣れな方にはサポートが必要となる」という点にデメリットを感じていると回答しています。

一方、準備・検討中のBグループが想定するデメリットとしては「⑥不慣れな方にはサポートが必要となる」、「④複数の資料を同時に見にくい」、「①初期費用・維持費用の確保が難しい」が挙げられました。

また、特に取り組んでいないCグループが想定するデメリットとしては「⑥不慣れな方には

サポートが必要となる」、「①初期費用・維持費用の確保が難しい」、「④複数の資料を同時に見にくい」が挙げられました。

3. 障壁・メリット・デメリットの整理から見る課題

(1) 導入時の障壁

B・Cグループともに費用対効果や予算に関する障壁が上位に挙げられていること、また、特にCグループにおいては、機運が高まっていないことが障壁であるということが判明しました。

(2) 導入後のメリット

B・Cグループでは、資料の修正や差し替えが簡単にできること、資料の保管スペースを削減できることをメリットとして想定しています。

既に取り組んでいるAグループでも、B・Cグループが想定している点はメリットとしてあげています。他にも実際にタブレット端末を取り入れたことで、資料をいつでもどこでも見ることができたり、資料を探しやすいことについて特にメリットを感じているようです。

また、B・Cグループが障壁かつデメリットとして懸念していた費用対効果について、Aグループのうち3自治体は「①コスト削減につながる」と回答しており、議会資料をペーパーレス化することによる費用対効果は一定程度あると推察できます。

既に取り組んでいるAグループや後述する先進自治体の事例によると、議会資料のペーパーレス化には、他にも図表6のように様々なメリットがあることが分かりました。

▼図表6 議会資料のペーパーレス化による様々なメリット

【自治体職員のメリット】
・様々なコスト削減につながる
・職員の労務負担軽減につながる
・修正や差し替えが簡単にできる
・資料をカラーで見ることができる
・資料をいつでもどこでも見ることができる

・資料が経年劣化しない
・資料を探しやすい
・資料の保管スペースを削減できる
・環境に配慮できる
・議員への情報提供を同時的、即時的にできる
・重い議案書を持ち歩かずに済む 等
【議員のメリット】
・資料をカラーで見ることができる
・資料をいつでもどこでも見ることができる
・資料が経年劣化しない
・資料を探しやすい
・重い議案書を持ち歩かずに済む
・弱視等の障害のある議員や高齢議員が資料を見やすくなる 等

<出典>アンケート結果等を基に筆者作成

(3) 導入後のデメリット

B・Cグループでは、不慣れな方にはサポートが必要となること、複数の資料を同時に見にくいこと、費用の確保が難しいことがデメリットであると想定していることが分かります。

既に取り組んでいるAグループでも、ほぼ同様のデメリットを感じているほか、メモが取りにくいことをデメリットとして挙げています。

(4) ペーパーレス化のポイントと課題

(1) から (3) であげられた、多摩・島しょ地域自治体の多くが認識している議会資料のペーパーレス化のポイントを、図表7のとおり整理しました。

▼図表7 多摩・島しょ地域自治体の多くが認識している議会資料のペーパーレス化のポイント

項目	ポイント
障壁	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーレス化の機運が高まっていない ・費用対効果が分からない
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の修正や差し替えが簡単にできる ・資料の保管スペースを削減できる ・資料をいつでもどこでも見ることができる ・資料を探しやすい 等
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の資料を同時に見にくい ・メモが取りにくい ・不慣れな方にはサポートが必要となる

<出典>アンケート結果等を基に筆者作成

これらのうち、赤字で書かれた障壁とデメリットのポイントに着目し、これから議会資料を

ペーパーレス化する際の課題として次の4つを抽出しました。

- ①機運が高まっていない
- ②コスト面での不安
- ③タブレット端末機能の不安
- ④不慣れな方へのサポート

これら4つの課題が解決されることで、ペーパーレス化の取組が加速されると推測されます。

これら4つの課題について、既に取り組んでいるAグループや先進自治体の回答から、ペーパーレス化する際の課題への取組方策を示します。

4. 課題への取組方策

(1) 機運を高めるために

先進自治体やAグループについて、取組のきっかけは何だったのか、どのような手順を踏んだのかなどを紹介します。

①先進自治体の取組

まず始めに、全国に先駆けて議会資料をペーパーレス化した逗子市の取組を紹介します。

◆全国に先駆けてタブレット端末を導入 (神奈川県逗子市)

逗子市は、市議会が2012年5月からタブレット端末の導入を検討し、2013年6月に導入を開始しました。検討は行政主導ではなく、議員主導で進められてきました。

タブレット端末の導入により、いつでもどこでも迅速に情報が共有できるメリットがある一方、資料を見比べる作業には向いていないため、完全なペーパーレス化は難しいというデメリットもあります。

そこで逗子市では、タブレット端末へデータを送信することに加え、予算書や決算書などの製本されている資料等については、紙で議員へ配付しています。

また、委員会等の資料請求の際、タブレット端末に資料をデータで送信することが可能であったため、待ち時間等がほぼなくなり、審査時間の短縮化につながっていました。しかし、2017年度から神奈川県の情報セキュリティクラ